環境と自然保護

石村　豪

最近の天候は随分激しく極端だと思う。100年に1度の冷夏の次に大旱魃が襲来したりする。気象関係者は口を揃えて異常気象だと云う。農林水産業に関係する人々は特に天候が気になる。こんな異常気象を起させる原因は一体何なんだろう。

戦後、産業の加速度的な発展とも大いに関係があるとも思う。巨大な煙突からものすごい量の黒煙を発生させたり、便利さにかまけて車社会生活へと移行した。熱帯から寒帯に至る原生林を躊躇なく伐採したり、いたる所で自然を壊し、人間中心の営みがなされた結果だろうか。

世界の環境保全を確保しようと、先年、ブラジルで地球環境サミットが行われ、色々な分野の専門家が意見を交換し、地球的規模で21世紀に向けて、いかに環境が生物にとって大切なものかを確認し、その保全と悪化を防ぐため具体的な提案が選択された。

自然破壊は開発に起因することが多い。人間が経済を重視しすぎる結果、開発のスピードが速まり、このことがずさんな計画で実施されれば、地球の貴重な遺産がどんどん失われる。数億～数百億年かけて、子孫を守り続けてきた生き物を失うことは、我々人間にとっても悲しむべきことである。

自然を尊び、自然を学び、自然を愛し、そして自然との調和があってこそ、心がやすらぐのではないだろうか。一人一人がもっと、自分のまわりに目を向けようではないか。

☆　一つのでき事

我家の狭い庭に1本のミズナラがある。このミズナラは、実を播いてから20年近くなり目通り40cm位になったが、まだ実をつけたことがない。昨年の初冬にあまり樹が高くなったので、梢を整枝したら、今年は新枝が多く出て、樹上部がこんもりした。このミズナラに8月に入って、ハトが巣を作った。毎年アメリカシロヒトリが発生するが、今年はその発生もなく薬剤散布もはぶけた。繁ったミズナラの樹上はまさにハトにとって心地よく外敵からのがれる安全な場所なのかもしれない。今年の夏は雨が少なく、毎夕、散水していたが、ハト君に迷惑をかけないよう散水しながら観察をつづけている。もう、そろそろ巣出つ頃だと思う。自然でいいなあと思う。

〔書　評〕

□石澤　進：ユキツバキを指標とした植物分布
228 pp.　1996.　学会出版センター．¥9,500.

1980年に始まった新潟県の植物同好じねんじょ会による新潟県植物分布図集は，すでに16集に達し，県単位の分布図集として抜群の出来映えと，その中に挿入された会員によるさまざまな植物地理学的論説によって異彩を放っている．この事業の推進者である著者が独自の手法で，新潟県フロラを特徴づける日本海要素植物のエッセンスをまとめたのが本書である．典型的な日本海要素植物としてのユキツバキを基に，100種の水平垂直分布をメッシュ法によって数値的に比較した結果，分布型の異なる6群を判別している．メッシュシステムによる植物分布図は今や当たり前であるが，そういうシステムをとる理由は単なる表現上作図上の便宜のためだけではない．分布を数値化することによって，目分量ではない植物地理学的検討を可能にすることに意義がある．これは既に堀川芳雄氏が試みたことではあるが，本書によってより精密な処理の新しい方法が提示されたことの意義は大きい．これを足場に，それぞれの植物群の生理生態学的研究が進めやすくなり，日本海要素ばかりでなく，日本の植物地理の解明に指針を与えることとなるだろう．　（金井弘夫）

植物研究雑誌71（4）：236頁（1996）